

たかのへし

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

憧れと思いやり

高四の新たな伝統が生まれた瞬間

校長 加納直樹

体育学習発表会が先月28日土曜日に開催されました。朝から夏を思わせるような日差しの強い午前中でしたが、熱かったのは気温のせいだけではありません。3年ぶりに全校児童が一堂に会する体育学習発表会は、大きな歓声と拍手に包まれ、会場の熱気が格段に違いました。私の大好きだった運動会の懐かしい感覚がよみがえるような気がしました。応援団の迫力ある応援合戦を皮切りに、会場のボルテージはぐんぐん上がっていき、それと比例し、本気120%で取り組む児童のパフォーマンスも上がっていきました。どの学年の子供たちもよく頑張りました。表現のトリを飾ったのは6年生の「高志伝2022」の圧巻のパフォーマンスでした。最高学年である僕たち私たちの高い志を伝えたいという強い思いは、6年生全員のきびきびとした、一糸乱れぬ動きからビンビンと伝わってきました。そして、演技を終えた児童全員の誇らしげな表情に心が震えました。

さらに、マイクを握った6年生代表児童が「今日は1年生から5年生、そして保護者の方々がたくさん拍手をくださったことがうれしいです」「本気で一生懸命練習してきたので、動きだけでなく48人全員の心も揃えることができました」「3年ぶりにみんなで開催できたことが本当に本当にうれしいです」「見ている人の心に何かを届けられたとしたらうれしいです。今は達成感でいっぱいです。これから学校生活も最高学年として頑張っていきます」この言葉を聞いているときはもう涙をこらえるのに必死でした。

6年生はこの表現をスタートする直前、準備万端であるにもかかわらず長い時間待っていました。それは、たった今ソーラン節を踊り終えた5年生たち全員が水分補給を終えて座席に戻るのを待っていたのです。何より自分たちのパフォーマンスに込めた思いを、これから高四のよき伝統として5年生に伝えたかったからです。その思いやりの心は確かに後輩たちに伝わりました。「みんなが揃っていて素早くとにかくカッコよかった」「やる気なさそうとか自信がなさそうにしている人が誰一人いなかった。すごい」「来年自分たちもやってみたい」「あんな6年生になりたい」これは、6年生の演技を観た5年生が口々に語った感想です。

下級生はお手本とするべき上級生に憧れを抱き、上級生は自分たちを慕う下級生たちに思いやりをもって接する。まさに私たち高井戸第四小学校の伝統とするべき「憧れと思いやり」が目に見えて誕生した瞬間でした。この「憧れと思いやり」に象徴される全校児童の心と心のつながりを今後は高四の伝統として育んでまいります。

高四小の先生たちも皆、児童の力が最大限に發揮できるよう、全力で取り組みました。子供たちの本気と先生たちの本気が一つになった素晴らしい体育学習発表会でした。

次年度はコロナが収束し、全校競技や団体競技が復活し、地域の方々も皆さんご招待できる、そんな運動会が実施できたらいいなと密かな野望を抱いております。

最後になりましたが、体育学習発表会のご参観ありがとうございました。そして、日頃からの本校の教育活動に対する、ご家庭での温かいご支援とご協力に感謝しております。